

学校図書館支援センター通信 NO.37 11月号

平成22年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）



「気がつけば、もう降りる駅！」

今年の読書週間（10月27日～11月9日）の標語（読書推進運動協議会による）は、「気がつけば、もう降りる駅」でした。今秋も各学校で工夫を凝らした様々な読書活動が行われたことと思います。「先生方のおすすめの一冊」「図書委員会による読書クイズ」「校長先生の読み聞かせ」「お気に入り本の帯づくり」「縦割り読み聞かせ大会」「読書郵便」「ボランティアの方々によるパネルシアター」「全校辞書引き大会」「作家講演会」等…。子どもたちは、友だちと一緒に時間の経つのも忘れて、たっぷり、ゆったり本に親しむことができたことでしょう。読書週間を機に、これからも全校で「読書の日常化」や「言語活動の充実」をより進めていきたいですね。

今月は、学校での読書週間の取り組みについて、司書教諭さんに紹介していただきます。

10月26日～11月19日まで、信篤小では読書祭りが行われています。今年は朝会でブックフレンドリー委員会の児童全員で「おもち一つでだんまりくらべ」という大川悦生作の昔話を発表しました。体育館のギャラリーに掲示された大きな絵がお話に合わせて1枚ずつめくられます。全校児童はそれに合わせて体の向きを変えながら聞き入っていました。

この他にも、委員会の児童が選んだ本のミニお話会やしおりコンテスト、3年生以上の学級代表による辞書引き大会、学年毎に目標のページ数を決める読書マラソンなどが行われています。しおりコンテストの応募用紙は司書の浜岡先生から希望者に直接手渡されるので、意欲が一層高まります。応募された作品はどれも力作揃いです。委員会児童による審査で入賞した作品は、来年度のごほうびしおりとして活用させていただきます。

（信篤小学校 司書教諭 岡本かつよ）



委員会による昔話発表

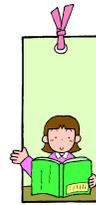
本校では、「朝の読書の時間」に毎年地域の方に、読み聞かせをしていただいています。1学期には、3年生を対象に『そこに僕はいた』の1章を読んでいただきました。2学期の読書週間期間では、2年生を対象に絵本『ともだち』を読んでいただきました。読書の好きな生徒はもちろんですが、読書に関心の薄い生徒もいつのまにか姿勢を正し、真剣に聞き入っていました。



本との豊かな出会い

また、学校図書館員の金子先生には、「あら、こんな本が書棚でほこりをおぼっていたらもったいないでしょ！」というテーマでブックトークをしていただきました。生徒は、普段手にしない本を紹介され、興味津津の顔でした。このような形で読書に意欲が持たない生徒に働きかけを行っています。さらに、ただ本を自分の好みだけで読んでいくのではなく、読書の質をあげ、読書が生徒の日々に定着していくように工夫しています。

（第六中学校 司書教諭 五十嵐ふみ代）



路子の部屋 「調べる学習 達人への道（その1）」

これまで私自身が研究会で学んだり、実践したりしてきたことを紙面だけでうまく伝えられるか心配ですが、皆さんの一助になると嬉しいです。市川市ならではの豊富な図書資料を使って、子どもに力をつけていきましょう。

テーマ設定に時間をかけよう！…2時間は必要！

学校図書館で調べる学習は「テーマ設定」がどうできるかが、学習の成功の鍵を握るといっても過言ではありません。課題は教師が与えて調べさせてしまいがちですが、最も重要なのは子どもたちが「調べて追究するに値するテーマ設定ができるかどうか」にあります。

Point 1 大前提として、一人調べが原則

グループで活動するときも、1人ずつ調べたいことがあるように仕組む。

Point 2 子どもたちは未知のことはテーマにできない。

テーマを設定するにはある程度、既存の知識が必要。教師は予め授業で学んだことを基に大きな枠組みを子どもたちに提示する。予備調査や体験することは有効である。

Point 3 テーマを決める段階から図書を調べる。

資料の無いものは調べることはできない。資料がない場合はテーマを変える必要がある。

自分なりに複数の図書資料が見つかったら、この時点で、調べる見通しが立つ。

Point 4 グループ交流を随時実施する。

友だちの考えを知ることが必要。テーマと使える図書資料を報告し合うだけの、短時間のグループ交流をする。

教師が、学級全体で一つの大きなテーマを提示し、多方面にわたって考えた中から、子どもたちが自分の関心のある部分を調べていく手法は、どの教科にも有効です。

（※このシリーズは5回にわたって連載します。）



図書館の窓から

～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



中山小では、年に3回、図書委員によるクラスへの読み聞かせを行なっています。2回目の11月は、1・2年生といずれも学級にいきました。初めて読むときは、ドキドキですが、一度経験すると度胸もつき、「楽しかった。」「聞いてくれてうれしかった。」という声があがります。

これからの読書週間では、本のクイズやオリジナルしおり作りなどを企画して、たくさんのお客さんが学校図書館に来て、楽しんでくれるように準備しています。2学期の最後には、大型ペーパーサートの発表もあります。どんなふうにできあがるか、今から楽しみです。

（中山小学校 学校図書館員 勝畑 葉子）



図書委員会の読み聞かせ



「じゃあ、読もう。」

2010年は、「国民読書年」

第56回「学校読書調査」結果発表！

全国学校図書館協議会が毎日新聞社と共同で毎年実施している「学校読書調査」の結果が発表されました。これによると、2010年5月の1ヶ月の平均読書冊数は、小学生は10.0冊、中学生は4.2冊、高校生は1.9冊になっています。

なお、不読者（5月の1ヶ月間で1冊も本を読まなかった）の割合は、小学生は6.2%、中学生は12.7%、高校生は44.3%になっています。

（※ 詳細につきましては、全国学校図書館協議会のHPをご覧ください。）

～ふむふむ、わくわく、ほかほか図書館～

◎ふむふむ … 学習に役立つ！

○わくわく … おもしろい本がいっぱい！

○ほかほか … ゆったりと居心地がいい！



【塩焼小学校】

「ふむふむルール」には、子どもたちの調べ学習を支援するオリエンテーション資料として『調べ学習の7つのポイント』が掲示されています。子どもたちが学習の仕方を振り返り、確認できるようにしています。

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4 TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html（※「市川市教育センター」で検索できます。）

